

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営推進会議をおこなっており、その会議にご家族や地域の方にも参加して頂いてグループホームと云う事業、その中で暮らしている利用者をより深く知って頂ける様努めています。		自治会等にも(ゴミ捨て、ゴミ収集)利用者、職員等が積極的に参加出来る様にする。まずは、身近な所から徐々に範囲を広げたい。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は共に理念を共有し毎日出勤時に理念の復唱して日々のケア実践に取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	月1回その月に行った行事の写真などを載せご家族へ郵送させて頂いています。しかし、地域の方達には浸透が薄いと思われる為、もう少し努力していきたいと思っています。		自治会の回覧板にお便りを読んで頂ける様、回覧してみてもと考えている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	この項目はなされていると思います。近所の方々やお店の方々にも以前より事業所を把握して頂いていると思われます。又、イベント等にも積極的に参加して頂ける様、招待状も出させて頂いて参加して頂いています。		この先も今までと同様のお付き合いをして頂きたいと思っています。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	以前よりもグループホーム自体が浸透してきた為、地域の方々には快く受け入れて頂いています。		自治会・地域活動については、もう少し利用者・職員の積極的な参加が必要かと思っています。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	まだまだ地域の高齢者に対しての状況が薄いと思われ把握出来ていない部分もあります。しかし、ごく一部の地域高齢者に関してはデイサービス利用を促し利用されている方もおられます。		もう少し地域高齢者の把握、理解をした上で徐々に対応を考えていきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>理解はしていても、なかなか実践に移しそれを継続すると云う事に欠ける部分があります。もう少し職員の足並みをそろえて利用者一人ひとりに合った対応をし、暮らし易い生活環境を考えていきたいです。</p>	<p>確実に一歩いっぽスタッフの足並みをそろえ、バラつきのない介護を目標としたい。(利用者の状況把握、ケアプランに添った実践)</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で話し合った事を各ユニットのミーティングで発表を行い、職員への内容の理解、又は意見の場をもうけています。</p>	<p>事例発表の後、その利用者が穏やかに生活する為にはどんな工夫が必要かを考え実践していきたいです。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>その時々によって広域連合の人に情報の共有を行っています。サービスの質の向上をはかれる様、努めています。</p>	<p>祝い事やイベントがあるとき、地域の人に声を掛けたり一緒に食事等をし交流を深め情報を共有したいと思います。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>福祉法等、色々な勉強不足で職員全員が把握は出来ていません。もう少し職員同士での学びが必要と思われる。</p>	<p>もう少し学習の場をふやし知識の習得をする。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>月1で身体拘束会議を行い拘束とはどの様なものがあるかをの担当者が話し合う場をもうけています。又、社内のミーティングにおいてもその内容を理解して頂き虐待防止に努めています。</p>	<p>今後も拘束会議の内容を理解する話し合いの場をもうける。利用者の身体の状態確認を行う。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族の契約につきましては、最初の入所する段階で十分な説明を行っています。その旨をご家族の方も把握して頂いた上での契約、解約となっています。</p>	<p>利用者の日常生活での変化・状況を見て、ご家族には連絡を入れ説明させて頂いています。(ケアプランの内容の変更等も含む)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満、苦情等は適切に対応が出来る様、職員に気軽に話せる様な環境を作っています。		利用者の方はなかなか思っている事を言づらいのかとも思います。どのようにしたら、もっと気軽に話し合えるか外部者へ表せる機会を設けられるか考えて行く様に努める。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時やホーム便りで家族の方には、定期的に利用者の暮らしぶりの報告をしています。何よりも家族との連携を大切にしています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に何度か意見交換や不満、苦情について家族の方と話しが出来る場を設けている。		出された意見は運営に反映させる様に取り組んでいく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、定期的な面接を通じ、意見の反映の場を作り必要な事は実践している。管理者が集まり、月1回の定例会をし意見の反映の場としている。		いつも限られた職員からの意見しか出て来ないので、職員同士の活性化の為にも積極的に提案を聞く、話す場を作る。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その度状況によって利用者や家族の方の要望に対応が出来る様、職員同士での話し合いの場や勤務の調整を行っています。		食事担当者の導入。利用者ともっと関わる時間をとり、より良いケアを行える様、支援をして行きたい為。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動については、利用者を第一に考えダメージを防ぐ様、配慮を十分に行い、より良いチームケアが出来る様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>積極的に研修に参加し、週一回の職員同士でのレベルアップを計り実技の講習会を行っています。</p>	<p>一通りの基本動作の確認。利用者一人をケースにあげ困っている事を職員同士で話し合い意見交換の場がある。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>年に何度か地域の同業者と交流、意見交換が出来る場があり、この交流を通してより良いケアを、提供出来る様サービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>何よりもチームケアが大事なのであまりストレスを溜めない様、こまめにミーティングを行い意見交換の場を作ったり、休憩を取り気分転換を計っている。</p>	<p>職員同士で意見交換したり、相談しあったりする環境はあるが、もっと安心した雰囲気の中でイキイキと仕事出来る様に工夫して行く必要があると思います。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の努力や実績を把握し、各自が向上心をもって働ける様に努めている。仕事始めには基本理念を読み上げその言葉に添う様に努めています。</p>	<p>職員の希望の休日を取ってもらい、その中でゆずり合いができ、勤務体制が流れるようになっている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>話しやすい、もしくは溶け込みやすい雰囲気を作り、不安な事や求めている事等をよく聴き取れる様、職員一同信頼関係を作る事を大切にしている。</p>	<p>担当スタッフを決め、何でも話せる関係制をつくる。問題があれば担当を変更し再度関係を作りなおす。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>話しやすい態度や対応を心掛け、家族の不安を取り除く事が出来る様、傾聴の姿勢を大事にしている。</p>	<p>家族の不安な事や求めている事を、受け取れる様に職員一同努める必要がある。施設内の事もきちんと把握し、その度家族からの質問、疑問等に対応出来る様にして行く。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>グループホームの入居だけでなく、在宅とか他の生活の可能性についても家族との話し合いの場を設けてます。</p>		<p>支援ハウスも併設してあるので、本人又は家族が選択出来る環境にある。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人、家族の方に施設を見て頂いて、利用者のその時の状況に応じた対応をしています。</p>		<p>管理者が最初に本人、家族等といろいろ話し合いの時間を持ったりしています。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一方的な介護ではなく自分の家族と思い、相手の立場になって何でもしてあげるのではなく出来る事は一緒に楽しく行く。</p>		<p>つい何でもやってしま介護ではなく出来る事、出来ない事を見極め本人が、やる気を起こさせる対応に努めている。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>何でも私達がやるのではなく、家族でなくては出来ない事もある。という事を家族に話してます。</p>		<p>利用者の出来事は、必ず家族に連絡しています。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人と家族の話を聞き、より良い家族関係が保たれる様、支援しています。</p>		<p>本人、家族の話を傾聴し、家族再生の手助けをする。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	<p>趣味、宗教も自由に、知人なども自由に面会に来ています。</p>		<p>天気の良い日はスタッフと一緒に散歩、ドライブ等にも外出してます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆と一緒に暮らして居て、良い関係が続けられる様に支援しています。		個々に生活歴や性格も違った中生活、困難も個性と考え受け入れていく環境を作っていくことが不可欠。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族の方とはサービス利用が終了しても、良き理解者として交流されている方も多くおられます。		会社の行事等の案内を郵送したりしています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人、一人ひとりの思いを、叶えられる様に支援しています。		本人が外出(散歩、買い物)した時に一緒に出かける。旅行などは希望に添う様に計画する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活のパターンを出来るだけくずさない様に支援しています。家族の方からの情報もサービス等に活かしています。		個性の尊重を心掛ける。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	無理のない様に利用者にとって、楽しく安心の場となる様に支援を行ってます。		一日の体調を把握するためにバイタルチェック等を行い、表情や感情の起状を読み取りその人らしい生活のサポートをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングと本人希望、要望を取り入れたケアプランの作成をしています。		ケース会議に作成したケアプランをスタッフの前で発表し皆の意見を聞いてます。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意見要望などを、尊重し介護計画を見直しています。介護スタッフがケース会議で気付いた所を月に4回話し合いをしています。</p>		<p>モニタリング、見直し援助計画</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>変化がある事をアセスメントシートに記入をして、次のスタッフに口頭で申し送りをしています。他にも気が付いた事は日誌にも記録をしています。</p>		<p>日々の様子を見ながらケアプランに沿って行われています。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>支援ハウス、通所サービス等を利用されています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域の人達との交流、ボランティアの協力により時間のある時は来て頂いています。消防とは消火訓練救命救急等を協力を頂いています。文化祭、映画鑑賞等に参加しています。</p>		<p>地域の人達の交流、ボランティアの人達の協力を得て行きたいと思いません。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>			
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>法人代表、又は管理者が地域会議に参加され情報交換をしています。権利擁護については、社会福祉協議会と連携しています。必要に応じて活用させて頂いています。</p>		<p>地域の方と法人代表、管理者、スタッフも参加を多くして行きたいと思いません。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	月に2回の訪問診療で受診。定期健診、緊急診療に医者、看護師が訪問してくれています。日常の健康等は変化があった時にはスタッフが看護師に電話連絡をしています。		本人の希望する医師の受診を原則としています。これからも今迄と同じ連携を組んで行きたいと思えます。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	浦河日赤、静内石井病院、山田クリニックに受診の支援を受けてます。		支援体制が出来ているので職員は、安心して介護に打ち込める。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	隣接している事業所にいる看護師が毎日健康チェックに来ています。利用の変化があれば連絡し相談しています。		毎日バイタルチェックを見て頂き、変化がある時は相談して行きたいです。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	入院時には出来るだけ病院に行く様にしています。情報交換を行い、早期退院出来る様にしています。		必要に応じ山田クリニックの看護師が対応してくれる。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	ターミナルケアに向け家族、医師との連携を密にして安心して頂ける様、スタッフ一同努力しています。変化があるとその都度家族に連絡して本人、家族に安心して頂ける様心掛けています。		今後も本人、家族からも信頼され、その方がどう生きどう死にたいかを話し合い安心した終末期が送れるようにしていきたい。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	いつでもかかりつけの医師、看護師に連絡出来る様に携帯番号を介護職員全員が把握しています。夜間、休日にかかわらず、連絡を介護職員交代時変化状況を伝えています。		今後も過信することなく努力していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族と本人を交え、十分な話し合いを重ねる事で、本人の不安を軽減するような取り組みをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーを損ねる事のないような対応を心掛けております。		心掛けてはいるが不足する部分もあり、一人ひとりの尊厳重視を徹底していけるよう話し合っていく必要がある。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定や希望、思いを表現出来ない利用者もいらっしゃるので、すべての人に支援が出来ているとは言えません。		自己決定や希望、思いを表現出来ない利用者の全身、仕草などからサインを読み取り支援していきたいと思います。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい暮らしを優先したいとの思いはありますが、実情は職員側の都合で支援している事が多いです。		利用者さん一人ひとりの状況に合わせた、支援が出来るよう取組んでいきたいと思います。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者の行きつけの理容、美容室に行っています。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	春の山菜、秋のきのこなど季節感、旬の物を味わって頂いております。外食に出掛ける。		外食をする機会を増やしたり、個々に好物を楽しめる日をもうけて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者それぞれの体の状態や状況に合わせた対応をさせて頂いています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	時間を把握して排泄の声掛けをしたり、清拭をさせて頂き気持ちの良い介助に努めております。		排泄チェックシート記入しております。時間のチェックもしています。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望を聞き、日にちを開けない様にスタッフで心掛けています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	お昼寝をして頂いたり、入浴、体操をしたり廊下を歩いて運動したり、夜間ぐっすり眠れる様な支援をしております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日、スタッフと利用者全員で体操をし、1日を元気に過ごせるように声を出したり全身運動、レクリエーションを楽しんでいます。		本を読んで聞いて頂いたり、全員で歌を唄ったり、風船バレーボール投げ、カルタ取りなどを楽しんでいます。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っている人には、一人ひとりの希望や力に応じて使えるように支援しております。		買い物に行きたい時は、スタッフも同行。本人が気晴らしになる事を自由にして頂きその援助をさせて頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	温かい日には外気浴をしたり、散歩に行ったりして頂いています。		室内だけの生活ではなく、外の空気を感じてもらいたいので、閉じ込めない介護に取り組んでいる。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節によって花を見たり温泉に行ったり、祭りに行ったり色々な経験、体験が出来る様にしています。		室内だけの生活ではなく、外の空気を感じてもらいたいので、閉じ込めない介護に取り組んでいる。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をかけたいと頼まれたら電話をかけ、手紙はスタッフがポストまで出すように援助しています。		家族へは日々の生活を知って頂く為に、お知らせする取り組みをしている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の家族とは、良い関係作りをさせて頂いています。		出来る事なら隠し事をせず、ご家族のご理解と信頼関係を結んで行くために訪問された時には話し合いを持っている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束委員会を2ヶ月に1回開きその都度、ミーティングで発表し、スタッフ全員で取り組み利用者の意思を尊重し過ぎて頂いています。		身体だけでなく言動にも、大きな拘束であることを忘れてしまいがちなのでもっともっとスタッフ同士の話し合いが必要であり、その事に気付ける取り組みをしていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関、裏玄関に開けるとチャイムが鳴るようにしてあり、出入りがすぐ分かるようにしています。		各居室に鍵がかけられる様になっていますが、何かあった時にすぐに対応出来る様に開けられるようにしています。(本人の希望で鍵をかける時がある)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者に目がとどく場所に居る様に、心掛け転倒などに気を付け行動を見守るように心掛けています。		常に声掛けや目くばりをしていても隙間ができてしまい、完全に安全を確保出来ないことが悩み。(声掛けを多くするといちいち煩いと言われたりする)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物は、目の届く場所、手の届く場所を避け、別の場所に移動させ危険防止をしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故に関しては話し合い、今後事故につながらないように考えます。誤薬が無いように、利用者の名前を声を出して読み確認し合っています。		常に声掛け目くばり、気配りを心掛け、事故がないよう先手先手の対応を考えているもののそれでも隙間ができてしまう。早めの予測が事故を軽減すると思える。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員全員が救命講習を定期的に行っています。		自己の向上心を養うためにも定期的に行っている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	完全にはスタッフ全員身に付いていないと思いますが、年一回、避難訓練を実施し終わった後、話し合いをし震度4以上の時はホームに集合するようになっていきます。今以上に地域の方々の協力も、必要になるので働きかけたいです。		地域の人達に協力して頂ける様に、今以上に交流をもって働きかけをして行きたいです。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクに関しては、家族の方とも話し合い協力して頂きながら実施させて頂いています。		家族の協力なしでは、背負いきれない事もあるため、家族とはその都度綿密に話し合う取り組みをしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ間で情報を共有し、利用者の体調変化に注意を怠らないようにしています。		スタッフ間の情報の共有を徹底していきたいです。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の使用薬をファイルし、スタッフが確認し状況に応じ医療機関と相談をしています。		誤薬がないように注意し、医療機関との連携をより密にしていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事の工夫と軽い運動等を行って予防に努め、便が滞る時は利用者には合う下剤等を使用してもらっています。		各利用者に合う対応に取り組んでいきたいです。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後うがいや歯磨きで口内の清潔保持に努めています。		今まで通り取り組んでいきたいです。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の体調に沿って食事量には気を付けています。水分量チェック表をつけ水分摂取量の不足にならないように努めています。		脱水等に気を付けて、この先も取り組んでいきたいです。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	用途に応じた薬品を使用し、消毒等には気を付けています。ゴム手袋の使用、手洗い、うがい、マスク、ペーパータオル、予防接種をし予防に努めています。		感染予防には気を付けて取り組んでいきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	半月ごとに冷蔵庫のチェックをし、消費期限の管理をしています。毎日まな板、包丁、ふきん類等の消毒を行っています。		冷蔵庫チェックの徹底と調理器具類等の消毒を今まで通り取組んでいきたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	いつでもどなたでも気軽に訪問して頂けるよう、スロープや手摺りの設置をし閉鎖する事なく開放しています。		プランターに花を植えたり、花壇に花を植えるなどの取り組みをし、気分が和らぐ工夫をしている。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や季節の花を飾ったりして、家庭的な雰囲気を出す様心掛けています。カーテン等を使用しプライバシーの保護に努めています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士が思い思いに過ごせる場所がある。畳のスペースや渡り廊下に長椅子を置いて対応しています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた物や思い出の物などを、持って来て頂き使用して頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冬期は加湿器を使用し湿度を保つようにしている。換気窓を開け空気の入替え、暖房の温度調節をしています。		冬期間の温度設定や湿度を保つようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りの取り付けバリアフリー、六角テーブルの手掛け穴など使用しています。毎日の体操で自立の支援をしています。		六角テーブルの手掛け穴を使用して、立ち上がりが一人で出来る様に工夫しています。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや自室がわかりやすいように、入り口に写真や名前の札を付けています。		各自がわかってもらうために付けています。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏にはホーム前に屋根だけのテントをはり椅子、テーブルを置いて利用者同士でもおしゃべりをされています。		夏は日向ぼっこされたりします。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない



サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	この地域は高期高齢者や要介護者手前の人が多い。自治会の認識も徐々に高まり班として独立し繋がりを持ちつつある。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・ユニットの機能を活かし、利用者様の一人ひとりが自分の居場所を選べる自由空間にしている。
- ・スタッフ全員がユニットの枠を越えて、18名の利用者にかかわれる関係を結ぶ取り組みをしている。